

学校の詩

うた

学校の教育目標

自律貢献

文責：教頭 藤田天平

◆心の教育道徳公開授業を行いました

11月16日(火)に「心の教育」道徳科公開授業を行いました。当日は、多くの保護者の皆様、大野城市教育委員会の皆様、そして学校運営協議会の皆様にご参観いただきました。子どもたちは久しぶりに多くの方に参観していただいたことで、緊張した表情も見られましたが、一人ひとりが真剣に授業に臨むことができていました。道徳科は題材を通して、または主人公の生き方を通して、自分自身と向き合い、より良い自分を、より良い生き方を見つける教科です。子どもたち一人ひとりの「心」を育てていけるよう、今後さまざまな学習・活動を行っていきたいと考えております。

授業を参観された皆様からたくさんのお褒めの言葉をいただいています。一部紹介いたします。

- ・班で話し合ったり、先生の話の聞いているときもよい姿勢で聞いていてよい雰囲気のカラスだと思いました。
- ・大人も考えさせられる授業でした。子どもたちの柔軟な考えが聞けてよかったです。
- ・我が家も祖母や曾祖母の認知や病気が分かってから、家族も手探りで関わっている状態です。この授業や先生の話の聞いて、何か我が子も感じてくれたらなあと思いました。
- ・子どもたちもそうですが、特に授業をされている先生たちの表情がキラキラとしていました。

◆仲間たちと支え合い、共に歩く！『鍊歩会』

11月19日(金)、学校から春日市にある白水大池公園までの往復16kmを歩く「鍊歩会」を実施しました。

朝の出発式では、藤井 浩彦校長から「『安全で無事に』そして『共に歩く』、この2つの言葉をキーワードに今日一日頑張らしましょう。」と話がありました。また、3ブロックの代表生徒が、体育祭を彷彿させるような力強い誓いの言葉を言ってくれました。

昨年度と違って今年は朝から快晴となり、子どもたちは元気がいっぱい学校を出発していきました。お昼近くになり、かなり気温が上がっていきましたが、全員無事に白水大池公園に到着し、ブロックごとに昼食をとりました。青空の下で、仲間とともに食べる弁当は、普段とは違ったおいしさを感じていたのではないかと思います。

帰りの道のは、さすがに疲れた様子を見せていましたが、リーダーや班長を中心とした先輩が後輩に励ましの声をかけたり、体調を確認したりするなど、随所で「目配り・気配り・心配り」をしている姿が見られ、御陵中生の良さである「優しさ、暖かさ、学年・学級を越えた縦と横のつながり」を感じることができました。

解団式では、3人のブロック長が「お互いの頑張りに拍手」「みんながMVPです」「出発したときよりも縦と横のつながりが深まりました」と鍊歩会の成果を言ってくれました。そして、全校生徒でつくる最後の学校行事である「鍊歩会」を無事に終えることができました。

朝早くから昼食の準備をしていただきました保護者の皆様、往復の危険箇所子どもたちを見守っていただきましたPTAボランティアの皆様、朝の出発式からご参加いただき、写真を撮っていただきましたPTA広報委員の皆様、様々な方のご協力のおかげで無事に鍊歩会を終えることができました。ご協力ありがとうございました。



「虫の目 鳥の目 魚の目」



【教頭コラム】

「短い時間で勉強してあとは遊ぶ。これも立派な努力」

日本人が大好きな道徳の一つに努力と根性があります。確かに時間をかけて一生懸命努力するのは尊いことです。けれども、努力の目的は成果を出すことであり、同じ成果を出すなら短い時間で達成して、残りの時間を別の作業に振り向けた方が生産的です。

少ない時間と少ないコストで成果を上げること、つまり効率性の追求も努力なしにはできません。にもかかわらず、なぜか道徳的には効率を考えるのはずるいという観念があって、努力していないとみられてしまうのです。

私は講演会で会場の皆さんによくこんな質問をします。

「短い時間で要領よく勉強して、あとは遊びに行ってしまう子と、長時間机に向かって勉強している子と、どちらを評価しますか」

すると軍配が上がるのは、たいてい後者です。

子どもが夜遅くまで長時間勉強していると、親は「よく頑張っているな」とつい感心してしまいます。わが子を励まそうと夜食を用意してあげるお母さんもいるでしょう。これに対し、要領よく勉強してさっさと寝てしまうことは評価が低いようです。

しかし、短い時間でも勉強を終える子には集中力があります。早く終わらせようと知恵も使っています。つまり、そういう子はただ勉強するのではなく、どういうやり方をしたら早く終わるかも考えながら勉強しています。効率を考えることは決定的に重要な努力ですから、実は伸びる子は前者です。

努力は大事ですが、効率が伴わないと長時間だらだらやることになり、それは時間の無駄となるのです。

「子どもの幸せを一番に考えるのはやめなさい」 陰山英男



この本の筆者である陰山英男先生は、「陰山メソッド」(百ます計算)を世に広めた方です。もしかしたら保護者の皆様の中にも(もちろん子どもたちの中にも)、小学生の時に百ます計算を経験された方がいらっしゃるかもしれません。

さて、私も高校、大学受験の時には深夜まで勉強していました。そもそも普段は宿題をするくらいで、計画的に勉強をしてこなかったツケが回ってきただけなのですが、それでも母は時々、夜食を作ってくれました。ありがたい気持ちと、申し訳ない気持ちでいっぱいになったのと同時に、「絶対に合格しなければ」と強く心に誓ったことを覚えています。

現在は、娘が就職試験、息子が大学受験を控えている親として、私よりも真面目に勉強をしている我が子を見るたび、「偉いなあ」と感心している自分がいます。特に娘は、新型コロナの影響で専門学校に行けない日々が続ぎ、毎日オンラインで授業を受けています。私も時々オンラインで研修を受けることがあります。長時間になると、目が疲れ、肩や腰が痛くなります。これを毎日続けているかと思うと、本当にかわいそうになります(親バカですみません)。我が子の進路実現に向けて、親は結局のところ、そっと見守り続けるしかないのかなと思っています。

陰山先生の著書の話に戻りますが、確かに「効率」を考えながら、勉強を短時間で集中して取り組むことができれば、それが一番だと思います。しかし、何事もそうですが、最初は誰でも要領よくこなすことはできません。努力を続け、粘り強く取り組む中で、「こうすれば効率的にできる」「ここを工夫すれば時間を短縮できる」と分かり、徐々に要領をつかめてくるものです。

本校の教育目標にある「やり抜く力」には、「継続の大切さ」や「粘り強さ」が含まれています。受験に向かう3年生は特に、この「やり抜く力」を身につけることができるよう、全職員が協力して指導をしていきたいと考えております。

◆お知らせ

11月27日(土)は「市民総ぐるみ防災訓練」の日です。

これは大野城市民が一斉に防災訓練に取り組み、地震や洪水などが発生した際にスムーズに行動できるようにするためのものです。

学校は27日(土)を登校日とし、当日の午前中は授業、午後から避難訓練を行います。

